

やすらぎ



「歎異抄」 第十五章 続き

「歎異抄」(第三十九回)

標 暁 講述

『善導大師御和讃』より、信心の定まる時、そこではじめて仏の御光に摂め取られて捨てられることはないから、六道に輪廻することはないのだ、と教えていたのだ。

六道は、「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天」であらわされる迷いの世界をさし、人間はすべてこの六道を経巡っているというのが、六道輪廻と云われる。釈尊はこの思想を一転されて、さとりをひらいたものは六道の輪廻から自由になれるのだということを説かれた。

そこで、浄土真宗の教えの上では、信心を得る人は阿弥陀如来の御光に摂め取られているから、六道輪廻から解放され、もうどこにも迷っていないことはない、仏と成る身にさせていただくということである。永遠に生死を離れていく道が私に開けてくるのだ。

このように教えを聴聞して領かせ

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji
発行人 池田孝郎

ていただいたことをもって、さとりと云ってごまかしているのではない

信心を得たというのは、仏の本願力によって迷いを離れる身にさせていただいたということであって、さとりをひらくということとは違う。それを、さとりをひらいたと云って、ごまかしているのではないか。まことに気の毒なことではないだろうか。

浄土真宗は、この世で本願を信じて、いのち終わる時に浄土においてさとりをひらかせていただくのだと、親鸞聖人は教えて下さった。そのように仰せられたにもかかわらず、自身にはつきりと納得ができないものだから、これはなんとも気の毒なことであるなあ、と唯円大徳は嘆かれています。

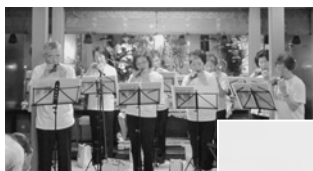
さとりをひらくということは、凡夫が修行によって聖者とならなければ

ばならないのである。自分の修行の力でさとりということになる。

信心を得るといことは、仏の誓願不思議によって信心を得させていただく身となる。我々凡夫が、凡夫のままですかるというのは、信心を得ることに他ならない。

さとりをひらくということ、信心を得るといことについて、根本的な違いというものはつきりしておかなければならないということを教えていただくのが、この第十五章である。

(当寺) 法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照



総会オカリナ演奏



子供会集合写真

報恩講 十月二十七日(日) 十一時 厳修

先照寺護持会総会報告

子供会報告

詳細は三頁

詳細は四頁

詳細は五頁

む げ こう 無 碍 光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

今回は、ある雑誌に「オルタナティブ、ストラクチャー」（二者択一構造）とあり、これは人間の持つ根本思考構造、否、生物の持つ根本行動原理であると思いました。ここに、生存と迷いの構造があると思ったのです。

生存の原理から考えてみますと、生命発生以来、食うか、食われるか、敵か、味方かの二者択一の選択を間違えると生命は存在し得ないことです。単細胞から多細胞へ進化して来ると、オスか、メスかの選択を間違えれば子孫を残すことも出来ず、種族は滅びます。又、言葉は必ず反対語を持ち表

現されて理解されていく構造を持っています。例えば、明暗、正邪、生死、善悪、表裏、開閉等々全ての言葉に対語があります。人間の脳も右脳と左脳の役割があり、イメージしたり、記憶したり、対語より思考して二者択一を意識、無意識に演算し、推論してどちらか一方の答えを導びこうとして働いています。

コンピュータの原理は、オン、オフの電気スイッチ作用の展開です。そして日常イエス、又は、ノーで選択して一つの答えを得る方法も一般的生活の一部になって応用されています。コンピュータは電子計算機で、このオン、オフを駆使して高速で一つの答えを選び出す機械であります。スーパーコンピュータも、ロボットも今日は急速に進歩し驚く程です。

しかし、明確に一つの答えが得られず、どちらにしようか、と迷うのも人間であります。誤りなく明確に選ぶことは誠に困難なことなのです。

本来は二択の選択が生存には不可欠なのですが、白黒を明確に出さない場合はグレーゾーンとして仮置きするのも人間の思考に本来あるものと思われれます。これを論理的に三つで現わす手法です。例えば、「三原則」と表現し、異なつたものの三つの要素を上げて、

一体化、ないしは、調和させようとする思考、行動です。色の三原則、光の三原則、平和の三原則、非核三原則等々です。三角形は円に外円し、又、内円すると中学の数学で習い応用出来る考え方と思っています。中心点を求めることが調和と見る考え方です。これが「三位一体論」ともなり、理想的概念にも使われます。三角形は球体にもなることです。例えばサッカーボールの紋様が五角形で球体ともなるのです。三角形が三つ寄つて五角形となるので、三角形は球体ともなる証明です。

ところが、人間は「三位一体」を求めても「三辣み」して、動けなくなる存在であることも明らかであります。今日3Dが流行していますが、この地球そのものが三次限の世界ですので皆、立体映像が好きなのです。

人間は、絶対一を求める一元論、二対項で求める二元論、三対項で求める三元論であります。

しかし、お釈迦様は「零」の発見者であられました。これを「無」、「空」、「無我」で示されました。ゼロは日常解かったことにしていますが、無、空、無我といわれると分からない現実があります。二河日道の「三定死」を一步踏み出し、念仏申す時であります。合掌

真の依り処

東日本大震災では数多い行方不明者があり、もう二度とこのような津波が来ないように海に還り、又、深く地の下に還り皆様を見守つておいでになります。人生、生きていますと一寸先は闇です。せつなく悲しい苦悩が多いものです。聖道の慈悲は自力でこうしてあおして迷い、そして、思いどおりにならない為、後悔ばかり口から出るのは愚痴だけ、何一つ救われることなくどうしようもない無常感だけが身を切ります。

親鸞聖人は助かりたいのなら浄土に往生せよと仰せになりました。如来様は苦しんでいる貴方を、私を、ほっておけなく毎日日光明の智慧と寿命のはかりしれない、「いのちいつくしみ」の慈悲を与えておいでになります。暗い闇の中で迷うことのない明るい大道を歩ませていただけるのが浄土の教えでしょう。

合掌
岡田ノリ子

鈴の音

仏恩ふかくおもいつ
つつねに弥陀を念
ずべし

親鸞聖人
(高僧和讃)

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要です。是非ともご参詣下さい。今年も樺暁先生をお迎えして厳修致します。】

樺先生が病気を患われて本年の会座が三回休会になりましたが、先生は手術後、療養をされてご法話出講に復帰されました。

年齢的に先生は鹿児島から埼玉

報 恩 講

報 恩 講

- ・ 10月27日 (日)
午前11時～3時まで
(10時30分受付)
- ・ 日中法要厳修
- ・ お斎 (お食事)
- ・ 法話 樺暁師
(元教学研究所所長、
法泉寺前住職)
- ・ 講題 真実の宗教
— 私にとって報恩とは —
- ・ 場所 光照寺本堂

※準備の都合上、出席の際はお寺にご連絡下さい。

まで来られるには大変であります。ご家族が心配されているというのは耳にしたことがあります。先生の口からは大変だというのは聞いたことがありません。

物理的な距離を超え、身体の苦悩を超える世界を念じているかが、私に問われた思いです。

先生は浄土真宗の救済の真髓を懇切にお話し下さります。

ご家族、縁者お誘い合わせの上、ご参詣下さい。お待ちしております。

副住職 (釈 徹照)

ひとくち 歎異抄

羅漢：人間に絶対はあるのか。
「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり。」後序



絶対善、あるいは、絶対悪は人間には存在しない。絶対は如来に存する。

川越喜多院の五百羅漢



(恵美氏庶務)



総会 委嘱状授与

(平山氏世話人)



総会 勤行



総会 恩徳讃唱和

護持会総会報告

淡海 雅子

平成二十四年度第十四回光照寺護持会総会が六月三十日十時より光照寺本堂において多数の会員が参加し開会されました。

勤行（正信偈同朋奉賛）に続き、婦人部と子供たち有志の合唱に合わせ全員で「真宗宗歌」・「恩徳讃」・「いのち」を合唱しました。

引き続き蓮如上人御一代記聞書より「鑽れば弥かたく、仰げば弥たかし」と題して佐々木玄吾師（元豊平道場主）よりご法話をいただきました。

この言葉は論語の中で孔子の弟子顔淵が師の人格を仰ぎ述べたものです。親鸞聖人が法然上人に出遇ったように有縁の知識に出遇う事が大事であり、人を通して法が伝わる。具体的な人の言葉によって教行が至り届き信が生まれると、通仏教の教信行証と教行信証の違いを話されました。本願を信じ殊勝なるほども知るとは諸仏から護念され徳を与えられ、知恩報徳の仕事が与えられるといった利益があるとお話いただきました。

総会は佐々木玄吾会長を議長に議案に入りました。前年度の護持会活動実績及び収支決算・監査報

告がなされ、全員一致で承認されました。今年度の護持会活動計画案及び収支予算案が提案され、いずれも原案通り可決承認されました。副住職様より聞法会の紹介、大塚陽子氏より子供会（ポニークラブ）の年次計画とお誘いがありました。

御住職様より光照寺護持会が十四回を迎え、報恩講が二十三回目となるお寺の歴史が語られました。また、護持とは何かという問いとお寺も護られているという感謝が述べられ、鯉のぼりの中を風が吹き抜けるように人々の上に法が伝わっていくことの大切さをお話いただきました。新世話人の平山正三氏、新庶務の池田恵美氏に御住職様より委任状の授与がありました。

その後、お斎をいただきながら新しく推進員になられた四名の感話と初めて参加された方々の自己紹介がありました。絵解きサークルにより副住職様、伊東氏の編集による映像を背景に「枕石寺御絵伝」が語られました。引き続き今年度はオカリナ演奏を拝聴いたしました。懐かしい曲に合わせ皆様で曲を口ずさみ楽し時間を過ごしました。最後に恩徳讃を唱和し閉会となりました。

今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



総会の様子



あひろの子 33 演奏



総会 婦人有志合唱



絵解きサークル



佐々木玄吾師ご法話

子供会報告

子供会「ボニークラブ」報告 「バーベキュー&流しソーメン」

坊守 池田 邦子

去る八月二十日（火）猛暑の中
小人九名、大人十三名の方の参加
を頂きました。勤行の後、陽子さ
んの「命の代表選手」の法話あり、



陽子さんの法話

お手伝いして下さった皆様
には感謝申し上げます。有り
難うございました。次回は十
二月に「子供報恩講」を予定
しております。ご参加ご協力
お願い申し上げます。

一言で命と云っても、失われる命
と、新しく生まれる命あり、おり
しも副住職に女児誕生報告、自分
の命同様、人の命も大切に、まし
てやいじめなど絶対しないこと、
大人社会においてもいじめの構造
がある中、これからを荷負って行
く子供達をいかに導いていく
か、私の姿勢を問われる事を
感じたお話でした。紙芝居の
後、大人の皆様の協力で、い
よいよ汗だくのバーベキュー
パーティーが始まりました。日
差しの照りつく中、竹の代わ
りで作ったペットボトルでの
透明感のある流しソーメンは
涼やかで子供達に大変好評で
した。プールにも入り、ホー
スの水かけもしたり、スイカ
割り等にも興じ大いに楽しん
だ一日でした。



みんなで遊んで楽しかった



みんなでおつとめ



甘くておいしい



スイカ割り



流しソーメン



チョーきもちー



美味しい焼肉

お知らせ

— 寺務所より —

◆法要のご案内

●報恩講 十月二十七日(日) 午前十一時より厳修。

●修正会 平成二六年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致しますよう。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会 毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樸曉先生。和讃を学んでいます。日程は当寺にお尋ね下さい。(※十月は報恩講です)

●大経の会

十月十四日、十一月四日、十二月十五日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別『正信偈讃IV』を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

十月二十一日、十一月十八日、十二月五日、午後二時～四時まで。講師は住職。『真宗の簡要』(住職著)を学んでいます。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学、親鸞における現生不退の視座、(副住職著)を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

◆さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。十月十二日、十二月十四日、平成二六年二月十五日、四月十九

日、六月十四日。

◆真宗に学ぶつどい

午後一時三十分～四時。会場は埼玉組の寺院。講師は武田定光先生。十月二十一日、十二月五日、平成二六年二月六日、四月十日。参加の方は当寺にご連絡ください。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しく願います。

俳句・川柳

吉澤 光昭

雪解水大池清し白馬荘
雷鳥の案内よろしく三國越
雪溪に群れ咲き白しコバイケソウ
ヘリの飛ぶ遭難難し山彼方
振り向けば昨日の山の貴きかな

※白馬岳縦走

西木 順子

ダリア大輪大恋愛が進行中
なにごとにもなかつたようだ花
請求書ためつすがめつ涼あらた

親鸞立像

江部 鴨村

西戎北狄どよもし来たる台風禍
からす瓜日暮れは黙の捨てなし
海なし県に潮騒ひびく鯛雲
秩父路はなべて坂なり鬼すすぎ
みだれ萩秋より淡暮登りくる
親鸞立像杖たてて聴く秋の声
とどまればそこに浄土が道の花

山田 恒

母の歳越えて生き様見えて来る
少し酒入れて世間を案に生き
赤とんぼ私の指に止まりそう

雨上がりもうそろそろの風を待つ

一杯いっぱいもう沢山と生きている
喜寿の坂やつと小さな夢が見え
汗拭いて余生が夢を追っている
遣伝子のせいしている子供たち

釈 義 深

有難や続きの土地を賜はりて
親鸞像守りくれるか若き寺
行く末は親鸞像に見守もらる
小さき寺深き教えに人と集う

短歌(詩)

佐藤 セツ子

みどり濃きしだれ桜の枝垂れてカー
テンの如く部屋を覆えり
誰一人採りて食せし跡もなし石榴は
熟るるふるさとの墓地に
郭公の鳴く声夫と聞きし道宅地とな
りてもう知らぬ街
五稜郭の桜一枝もらいたり子の家に
来て花供養する
大小のシーサー柵に並べ置く沖繩好
きの吾子亡きあとと

赤秀 品枝

この夏は暑い暑いと過ぎにけり鍋も
イイネと鰻を食する
今日も又赤子の笑顔に出会いけり正
法をつなぐ子に育てよと

篠原 潤子

バス停のタバコの吸いがら手でひろ
う即席めんこの空の窓際に
写真みるポート操つる亡父の顔一緒
にイカを釣った夏の海
北国の亡母が育ててアスパラ苗もら
いうけきて六年目の夏ボランティアデイサーピスの習字の
日亡母のしゃべりに似た婦人にあう

山田 邦興 画

梵鐘

東京五輪決定

二〇二〇年、五十六年ぶりに、安全、安心、確実な運営を訴えた東京が、イスタンブールとの決戦投票を六十対・三十六の大差で制し、十六年招致に続く挑戦で勝ちとった、都知事の東京で二回目の五輪は、どんな大会になるのか、東京招致のテーマは「デイスカバートゥモロー」(未来(あした)をつかもう)―だった、日本人の洗練された究極のホスピタリティ(おもてなし)を、世界の人たちに発見してもらう機会になるだろう。少子化の進み中、スポーツ選手の育成方法も考えなければならない。希望と期待でいっぱいいの心にひびいた。

二〇一三年 九月十日(日)

合掌

釋尼民徳